

## 平成 28 年度 第 1 回江別市社会教育委員の会議 会議録

### 1 開催日時

平成 28 年 8 月 2 日(火) 午後 1 時 25 分～午後 2 時 45 分

江別市教育庁舎 大会議室

### 2 出席者

○社会教育委員 9 名

佐藤レイ子委員、高木玲子委員、伊藤穎毅委員、杉山健委員、石川奈穂江委員、  
辻麻紀委員、藤田昌之委員、神保順子委員、井上大樹委員

(欠席：諏江康夫委員)

○教育委員会 渡部教育部長、萬教育部次長

情報図書館 山岸館長

郷土資料館 櫛田館長

スポーツ課 三浦課長、星野スポーツ係長

生涯学習課 佐々木課長、丸山生涯学習係長、横山主査(文化振興担当)、

井上青少年係長、吉田主任、高森社会教育指導員

### 3 開催結果

(1) 開 会

(2) 委嘱状交付

改選後最初の会議であるため、教育部長から各委員へ委嘱状を交付

(3) 自己紹介

各委員、教育委員会の順で自己紹介

(4) 教育部長あいさつ

(あいさつ後、教育部長、教育部次長は退席)

(5) 正副委員長の互選

委員長：佐藤レイ子委員、副委員長：高木玲子委員に決定

(6) 説明事項

①社会教育委員の職務等について

・生涯学習係長から資料 1 に基づき説明

資料 1 は、社会教育委員についての概要を整理したもの。

社会教育委員の職務については社会教育法の第 17 条に規定されている。1 つ目は社会教育について教育委員会に助言を行うために社会教育に関する諸計画を立案する、教育委員会の提出した議題に対し意見を述べる、必要な調査研究を行うこと。

2つ目は社会教育委員の会議に出席し意見を述べること、3つ目は委嘱を受けた特定の青少年教育に関する事項について関係者等に助言と指導を与えること。

具体的な職務としては、1つ目に社会教育委員の会議に出席し、議題に対し意見を述べること。2つ目に社会教育総合計画の立案。3つ目に不定期に開催される勉強会において社会教育に関する調査研究を行うこと。4つ目に道内又は管内で開催される社会教育委員の研修会等に出席し交流や研究を行うことが挙げられ、さらに、社会教育委員の役割として、1つ目に社会教育委員同士が積極的に交流することにより地域の問題を発見すること。2つ目に社会教育計画の立案を形式的ではなく委員自ら立案することにより、地域・他市の状況などを学べる。3つ目に現場を知るフットワークが必要。「学社融合」などに関わることも重要。4つ目に職務としての「研究調査」が必要とされている。

以上を踏まえ、社会教育に関する行政と市民との橋渡しが、大きな職務として位置づけられているが、そのためにどのような活動をすれば良いのか日々検討し続けているということが各市共通の課題になっており現状かと思われる。

その他の職務として補助金交付の諮問がある。社会教育法第13条により社会教育団体へ補助金を交付しようとするときは、社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならないと規定されていることから、予算の確定後、会議の中で年間の補助金交付について説明し、意見を伺いたい。

以下資料には、2 社会教育の概念、3 社会教育施設の種類について記載している。

4 社会教育委員の構成について、社会教育委員の身分は非常勤特別職の地方公務員となっている。従って条例により報酬と費用弁償が支給される。

最後にまとめとして、社会教育委員は市民の代弁者とあるが、教育委員会と市民の橋渡しが、社会教育委員の大きな職務となるので、これからもよろしく願いたい。

以上

(質疑等 → なし)

## ②平成28年度社会教育予算に係る主要事業について（各課から説明）

### ・生涯学習課所管分

平成28年度社会教育予算について、2月24日に開催された平成27年度第2回会議において予算要求段階の予算案として説明したところである。今回の提出資料は予算案どおり予算が確定したため、改めて資料として提出したもの。

生涯学習課所管について資料1ページから8ページまで説明する。

2ページ「旧町村農場管理運営事業」は、平成28年度から3期目の指定管理となるが、前期に続き「江別河川防災環境事業協同組合」が指定管理者として指定されて

いる。

補助金関連の事業について、「江別市女性団体協議会補助金」、「江別市PTA連合会補助金」及び3ページ「青少年ふれあい交流促進事業」、「生涯学習団体支援事業」は、それぞれの事業を実施するための補助金である。これらはいずれも社会教育事業を主体的に行う団体等に対して行うものである。

「えべつ市民カレッジ（四大学等連携生涯学習講座）事業」は、市内4大学との連携により、平成12年度から実施してきた「ふるさと江別塾」に加え、各大学が開催している市民公開講座や市主催講座等と連携し、「えべつ市民カレッジ」として位置づけ、統一的に市民に提供する事業である。平成28年度は、講座の開催予定を見通し易くし、受講の予定をたてやすくするために、半期ごとに講座の開催スケジュールを一覧にしたチラシを広報に折り込む。

「体験・ボランティア活動支援センター運営事業」は、後に説明する学社融合事業を実施するための支援組織で、当該センターの設置運営に関する事業である。

「家庭教育（青空子どもの広場）事業」は、2歳半～5歳児とその親を対象に、子育てに関する教育と、親同士のコミュニケーションをはかる場を提供し、1会場当たり30組、3会場で各10回の開催を予定している。

「江別市文化協会補助金」については、市民の文化活動の普及振興に係る事業経費の一部を、「市民文化祭開催支援事業」は、舞台、展示、文芸、生活文化各部門にわたる「市民文化祭」の開催に係る事業経費の一部をNPO法人江別市文化協会に補助するものである。

「子どもの文化活動育成事業」は、土曜日に市内各地域の児童・生徒に日本の伝統文化や生活文化の体験や学習活動の機会を提供する事業である。地域の指導者や市民ボランティアで構成された市民主体の運営組織である「えべつ土曜広場推進委員会」に事業費の一部を補助するもの。

「市民芸術祭開催支援事業」は、「まちかどコンサート」や「市民ミュージカル」の市民参加型の芸術文化活動を支援する事業で、「市民ミュージカル」は3年に1回の本公演を8月27、28日にえぼあホールで開催する予定である。

続いて青少年係担当の事業について説明する。

「青少年のための市民会議補助金」は、青少年の健全育成を目的とした青少年のための市民会議の活動を支援する事業である。

「青少年キャンプ村事業」は、江別市青少年サークル、江別市青少年活動協会の協力を得て、江別市子ども会育成連絡協議会との共催で、47年間継続して行っている。小中学生に1泊2日の野外体験、自然体験を通じて自立心や社会性を養う事業として定着している。

「発明教室開設事業」は、ものづくりを通じて創造性豊かな児童生徒を育てる「少

年少女発明クラブ」の自主的活動を支援するもの。

「ヤング・子育て電話相談事業」は、青少年や保護者等が青少年に関する悩み事相談を行う「ヤングテレホン」、保護者の子育てに関する悩みの解消等を図るための相談を行う「子育てテレホン」のボランティア電話相談員を配置した事業である。

「学社融合事業」は、小中学生の体験活動を重視し、地域やPTAが連携し地域教育力を高める事業である。自然体験や農業体験、酪農体験などの体験学習を実施するものである。

「小中学生国内交流研修事業」は、友好都市である高知県土佐市との小中学生の相互訪問による交流研修事業、「中学生国際交流事業」は、姉妹都市アメリカオレゴン州グresham市との中学生相互交流を行い、ホームステイや体験入学などの事業である。

生涯学習課所管事業は以上

#### ・スポーツ課所管分

8 ページ 2 段目からスポーツ課の事業である。

「学校体育施設開放事業」は、社会人等のクラブや団体に活動場所の提供を行う事業である。また、児童に対して夏休み中の小学校プール開放と土曜日に地域開放を行う事業である。

「体育施設整備更新事業」は、指定管理施設の屋内体育館、森林キャンプ場、あけぼのパークゴルフ場の維持補修整備及び備品購入等に係る経費である。新規の委託料は、過去から保管していた青年センターのPCB廃棄物の処理費用である。

「体育施設整備更新事業（体育施設耐震化）」は、平成 26 年度に行った耐震診断に基づく、大麻体育館第 1 体育室の耐震改修工事とトレーニング室棟の実施設計を行う経費である。

「スポーツ推進委員関係経費」は、市民のスポーツの振興及び普及に携わるスポーツ推進委員の資質の向上を図るための研修等の経費である。

「地域スポーツ活動活性化促進事業」は、スポーツ推進委員が地域や学校へ出向き、軽スポーツの普及を行うための事業である。

「江別市体育協会補助金」と「江別市スポーツ少年団補助金」については、それぞれの団体が行うスポーツ振興のための事業に支援するものである。

「体育施設管理運営事業」は、平成 18 年の開始から 3 期目となる社会体育施設の指定管理事業で、屋内体育施設は一般財団法人江別市スポーツ振興財団が、あけぼのパークゴルフ場、森林キャンプ場はエコ・グリーン事業協同組合がそれぞれ指定管理者となって体育施設の管理運営に要する経費である。

「屋外体育施設管理運営事業」は、はやぶさ運動広場と第二中学校グラウンド特設スケートリンクの造成管理を一般財団法人江別市スポーツ振興財団に委託してい

るものです。

「スポーツ大会等振興補助事業」は、市民体育大会などのスポーツ大会開催事業、体育館で実施している健康体力指導相談事業、スポーツ指導者養成事業に係る一般財団法人江別市スポーツ振興財団の事業を支援する経費である。

「3市交流スポーツ大会開催事業」は、近隣3市（厚別区、北広島市、江別市）で実施する交流事業であるが、平成28年度は江別市での実施がないことから、予算はゼロとなっている。

「スポーツ合宿誘致推進事業」は、東京オリンピック・パラリンピック開催決定を契機に、当市においてもスポーツ合宿を進めるため、平成28年度は中央競技団体へのPR活動、情報収集などのほか、道外からの合宿利用団体に対し、送迎バスの提供、道立野幌総合運動公園使用料の補助、江別市特産品の提供などの支援を行い、合宿誘致の取組をすすめるための経費である。

「全国大会補助事業」は、市内で開催される3つの全国大会に対する補助事業である。

スポーツ課所管事業は以上

#### ・情報図書館所管分

11 ページの中程から情報図書館の事業である。

「子どものための読書環境整備事業」は、学校図書館の環境整備の充実のために学校を巡回する司書3名、支援司書1名を配置する経費と、巡回に伴う消耗品費、図書購入費である。

「図書館資料整備事業」について、公共図書館として多数のニーズに応えつつ、時代やテーマに合わせ資料を収集している。本館と分館の図書のほか、視聴覚資料としてCD、雑誌、新聞等を購入していくものである。

「図書館設備等更新事業」について、図書館システムのメンテナンスとして保守委託料、施設の老朽化に伴う空調機器冷却装置の交換等に係る経費、行政資料保管用書架の増設のほか、公用車更新のための経費である。

「情報図書館コンピュータ学習室事業」については、初心者向けのパソコン教室の開催や市民ボランティアの協力をいただきインターネット体験を実施するために必要な経費を計上している。

「図書館運営管理事業（江別太小学校図書館地域開放事業）」については、平成27年度予算において、同校図書館の開館準備等に係る経費を計上していたが、平成28年度には通常運用に移行するため、図書館資料整備事業等へ統合し、当該事業は廃止したものである。

情報図書館所管事業は以上

・郷土資料館所管分

郷土資料館並びに、補助執行を受けているセラミックアートセンターの主要事業について説明する。

13 ページの郷土資料館所管分から、13 ページの「ふるさと江別塾 『江別を学ぶ』 開催事業」は、市民の郷土歴史学習を支援していくために各種事業を開催するもので、児童対象の「子ども学芸員カレッジ」を引続き実施するほか、市民対象の「再発見・江別探訪」では、市内の埋蔵文化財遺跡並びに史跡などの見学を通して、郷土学習と文化財の愛護啓発を図っている。

「郷土資料館企画展開催事業」は、郷土資料館収蔵資料を活用し、ふるさとの歴史や文化に対する意識を高めることを目的に、夏と冬2回のロビー展を開催するものである。

「埋蔵文化財発掘調査事業」は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財の保護に要する経費で、各種開発計画に伴う文化財保護のための確認調査を行うものである。

「野幌太々神楽保存会補助金」並びに「野幌太々神楽伝承会補助金」は、いずれも、市指定無形民俗文化財の保存伝承活動をする団体に補助金を交付し支援をしていくもの。

次にセラミックアートセンター関係の事業について説明する。

セラミックアートセンターでは、「やきもののまちえべつ」のイメージ定着と生活文化を豊かにしていく狙いで、優れた陶芸作品等の文化アートの鑑賞の場として、企画展を開催するほか、普及事業等を実施している。

「企画展開催事業」は、愛知県瀬戸市の協力による「トイレに見るやきもの文化～染付便器の民俗誌～」、「市内中学校・高校美術部合同展 2016」、「えべつ F U R O S I K I フェスティバル 2016」の3本を予定している。

「陶芸文化普及振興事業」は、センターの特徴を活かしながら生涯学習とやきもの文化の普及啓発を図るもので、ゴールデンウィークに開催した創作食器展などの展示会のほか、普及事業として各種陶芸教室、陶芸体験、技法講座等を開催する。

「セラミックアートセンター改修事業」は、館内設備の維持補修等に係る経費であり、本年度は「非常灯照明器具蓄電池取替工事」や、トイレの更新工事を行う。

郷土資料館所管事業は以上

(質疑等)

<質問>

3 ページの「えべつ市民カレッジ」は拡大ということで 109 万円の増額となっている。広報の関係かと思うが、詳しい拡充内容を教えて欲しい。

<事務局>

広報への折込で5月号はA4で8ページ、後期は講座の数が少なくなるので4ページ程になる。広報全てに折り込むと相当な数となるので、100万円超の増額となる。

<質問>

14ページのセラミックアートセンター企画展開催事業で、今年度は249万円増額になっているが、詳しい拡充内容を教えてほしい。

<事務局>

今年度は「トイレに見るやきもの文化～染付便器の民俗誌～」という展示会を行っている。展示物は愛知県瀬戸市に收藏されているもので、そこからの運送費が増額の内容となっている。

<意見>

区分に「継続」などと表記されているが、今後可能であれば事業がいつから始まったのかが情報として掲載されていると、特にソフト面については江別市がいつから取り組んでいるのかが、会議で話し合う上での重要な事項となる。

<事務局>

承知した。

<質問>

4ページの聚楽学園補助金は何を基準にこの予算額となっているのか。

<事務局>

聚楽学園の補助金の内訳は、毎月行われる定例学習会に係る講師の謝礼と専攻講座の講師の謝礼、他に文集印刷代や学習会の資料代を補助対象経費としている。補助率は75%以内なので、事業費総体としてはもう少し大きな金額となっている。

<質問>

13ページの「埋蔵文化財発掘調査事業」の増減額が違うのではないかと。

<事務局>

表記が間違っている。マイナス16千円に訂正する。

### ③社会教育総合計画に係る成果指標について

- ・生涯学習課長から当日配布した報告書に基づき説明

現在の第8期江別市社会教育総合計画は、策定にあたり社会教育委員の会議においてご意見をいただき、平成26年度から平成30年度を計画期間として策定したものである。

本計画では、第2章 計画の基本的な考え方 III計画の体系 3目標と成果指標に記載のとおり、各施策の実施状況や達成状況、効果や課題についてPDCAサイクルの考え方に基づいて点検・評価を行い、計画に反映させていくとしている。計画の成

果指標の平成27年度における結果について、資料のとおり報告する。

公表することにより、成果指標の動向が注目されることはもちろん、成果指標について分析し、前年度の取組内容について見直し、次年度の推進の方向性を打ち出すことにより、計画達成のための取組が一層推進されることが期待される。

なお、教育委員会では本計画の他に学校教育基本計画、スポーツ推進計画を策定しており、3本の計画の平成27年度の成果指標を定例教育委員会へ報告し、その後市ホームページにて公表する予定である。

以上

(質疑等)

<質問>

報告書1ページの地域子育てサービスの利用者数で、現状値と平成26・27年の数値の桁が違うが、これでよいのか。

<事務局>

市内に「ぼこあぼこ」という計画当初にはなかった子育て施設ができて、その利用者が入ってきたことから、このような数値になっており、間違いではない。

<質問>

「生涯にわたって学ぶことのできる環境づくり」の項目では、27年度も数値が下がっている。これをどのように捉えているか。

<事務局>

こちらは市民アンケートの結果なので、重く受け止めたいと考えている。アンケートの設問では、前の設問につながりがなく、いきなり生涯学習というフレーズが出てきている。自分が日々行っている学びの活動が生涯学習であるとの考え方につながっていない方がまだいると考えられるので、まず生涯学習という言葉を発信するような仕組みづくりをしていきたいと考えている。

#### ④平成28年度石狩管内社会教育委員等研修会について

- ・生涯学習係長から資料3に基づき説明

石狩管内市町村社会教育委員等研修会は、石狩管内の市町村の持ち回りにより毎年開催されているもので、平成28年度は江別市が当番市となり河川防災ステーションで9月2日に開催される。

研修の内容は5月27日に開催した社会教育委員の勉強会で協議した際の意見をもとに、研修テーマを「生きがいとしての社会教育活動」とし、北翔大学の谷川教授の講演、江別市文化協会と江別市女性団体協議会が団体の活動や課題についての発表を行い、北翔大学の学生を交えてグループディスカッションを行う。

研修会の開催地であり、社会教育委員の意見・協力をいただいた内容となっているので、ぜひ多くの委員に参加いただきたい。

以上

(質疑等)

<委員長>

今年は江別が会場になっているので、できる限り参加していただきたいと思う。

(7) その他

配布資料について

・生涯学習係長から資料4～10に基づき説明

資料4と資料5は、北海道の石狩管内の社会教育委員連絡協議会の平成28年度総会の資料である。平成27年度の事業実績、平成28年度の事業計画などが記載されているので、ご一読いただきたい。

資料6は北海道社会教育研究大会について。今年度は富良野市で10月13日、14日の2日間開催される。参加可能な委員は是非参加していただきたい。

資料7は全国社会教育委員連合発行の「ニュースレター」及び同連合の概要、助成事業やセミナーについての資料、「第58回 全国社会教育研究大会 千葉大会」の案内である。

資料8は8月25日に岩見沢市の空知総合振興局で行われる北海道立生涯学習推進センターの生涯学習推進基本講座の案内である。

資料9と資料10は、来年度9月11日から13日に全国の社会教育研究大会が札幌市で開催される予定で、その大会実行委員会からの報告である。石狩管内の役割は全体会となっており、ご参照いただきたい。

以上

(質疑等 → なし)

(8) 閉 会

午後2時45分終了